

デーリー東北
2026年(令和8年)7月10日(金曜日) (18)

災害時活用、緊急走行展覧

八工大、おひさま在宅クリニック八戸 共同研究

オンライン診療車 可能性模索



オンライン診療車の研究内容を説明した八戸工業大の浅川拓克教授(左)と、おひさま在宅クリニック八戸の井上比奈院長(右)、八戸市

「オンライン診療車」の共同研究を進める八戸工業大とおひさま在宅クリニック八戸は9日、同大で現在の進捗状況を発表した。今月から階上町で運用しているオンライン診療車の有用性に加え、災害時の活用や将来的な緊急走行の実現といった展望を示した。

(松渡拓)

階上町では昨年3月、地 高齢患者らが移動手段など域医療を支えていた民間の に困っていた。

そこで、おひさま在宅クリニック八戸は患者の移動負担を減らそうと、オンライン診療車の導入を提案。移動型緊急手術室「ドクターカーV3」を八戸市立市民病院と共同開発した実績がある同大工学部の浅川拓克教授に相談し、車両の整備を調えた。オンライン診療と患者の搬送機能を兼ね備えた車両は全国でも珍しいという。

同クリニックの井上比奈院長は青森県南地方で頻発する地震に恐れ「来たるべき時に備えて浅川教授らと連携しながら、災害で何があっても命を守っていける地域にしたい」と強調。市内の企業からの要望を受け、洋上でのオンライン診療の可能性を模索している現状を明かした。

浅川教授は災害時の医療での活躍を見込み、装備の充実を提言。「将来的に緊急走行の実現を目指す」と語った。工学部の学生は卒業研究の一環として、今後もオンライン診療車を通じて地域医療の課題解決に協力する。

※この記事・写真等は、デーリー東北新聞社の承諾を得て転載しています。